

基本政策部会の進め方

経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)2021

日本の未来を拓く4つの原動力 ～グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策～

1. 経済の現状と課題

(日本を取り巻く環境変化)

昨年戦後最悪の落ち込みを経験した世界経済は、再び前に向かって動き出している。単なる景気回復に留まらず、カーボンニュートラルの実現に向けた動き、デジタル化やデータ活用の急速な進展、国際的な取引関係や国際秩序の新たな動きなど、世界全体の経済構造や競争環境に大きな影響を与える変化がダイナミックに生じている。各国とも、いち早く経済を正常化させるとともに、これらの変化に対処すべく、最大限の政策対応を行っている。

我が国においても、昨年度の3次にわたる補正予算及び本年度予算における予備費の活用を始め、新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)による厳しい影響から国民の命と暮らし、雇用を守る万全の対応を行い、国民生活と経済を支え、失業率を主要先進国で最も低い水準に抑えてきた。

その一方で、人口動態としては少子高齢化が一層進むことが見込まれ、今後も、感染症に対して万全の対応を行うとともに、このような世界全体の急速かつ大きな変化に、スピード感をもって果敢に対応していくことが求められている。

(以下、省略)

ビジョン「2040年、道路の景色が変わる ～人々の幸せにつながる道路～」

I 道路の景色が変わる

1. 道路の役割再考 ～「進化」と「回帰」～

(中略)

モビリティ分野においても、CASEと称される「コネクテッド(Connected)」、「自動化(Autonomous)」、「シェアリング&サービス(Shared & Service)」、「電動化(Electric)」が進み、100年に一度のモビリティ革命と言われる時代にある。

このような技術革新により、人・モノ・サービスの移動の効率性、安全性、環境性、快適性等を極限まで高めた道路に「進化」するチャンスを迎えているといえよう。

・・・、道路は古来より、人々の交流やコミュニケーションを育む場であった。子供たちが遊んだり、大人が立ち話や井戸端会議を行う光景が、かつては至るところで見られたものの、モータリゼーションにより失われてしまった。

・・・、新型コロナウイルス感染症の拡大により、移動や交流が制限されるなか、私たちは対面でのコミュニケーションの普遍的な価値を再確認した。私たちの「幸せ」には、他者との「交流」が重要な意味を持つのである。

私たちの「幸せ」の実現について改めて考えたとき、道路を人々が滞在し交流できる空間に「回帰」させることも、現代において求められるのではないか。

基本政策部会の進め方(案)

日本を取り巻く 環境変化

デジタル化や
データ活用の
急速な進展

カーボン・ニュー
トラルの実現に
向けた動き

新型コロナウイルス
感染症による
厳しい影響

ビジョンにおける 基本的な考え方

技術革新により、
人・モノ・サービス
の移動の効率
性、安全性、環境
性、快適性等を
極限まで高めた
道路に「進化」

道路を人々が
滞在し交流できる
空間に「回帰」



基本政策部会の議事内容(案)

今回

- ICT交通マネジメント
 - ・ ICT交通マネジメントの展開とETC2.0
- 自動運転に対する支援
- 「拠点」施策
 - ・ 拠点施策の展開（バスタ、道の駅等）

3月頃

- グリーン社会の実現
 - ・ 円滑で低炭素な道路交通システムの構築
- 新たなモビリティの利用環境の整備
 - ・ 道路空間を活用した公共交通の利用促進

2月頃

- 多様なニーズに応える空間の利活用
 - ・ 生活道路でのシェアード・スペースの確立
 - ・ 自転車利用環境の整備